

2024
WEB

眼科ICT研究会

日時：2024年10月6日（日）10：00～12：00

形式：『ZOOM』を使用したWeb回線でのリアルタイム配信
《裏面を御参照の上、**必ず事前参加登録**をお願い致します》

第1部 教育講演

座長；池田 康博 先生（宮崎大学）
宮田 和典 先生（宮田眼科病院）

10:00
～
10:20

『感染制御システム構築のためのチェックリスト作成と今後の展望』

武田 太郎 先生（いしづち眼科/愛媛大学眼科）

10:20
～
10:40

『感染管理について手術室看護師としてできること

～術前洗眼と術後眼内炎を中心に～

河部 至貴 先生（木村眼科内科病院）

10:40
～
11:00

『アデノウイルス結膜炎アップデート』

川村 朋子 先生（福岡大学）

第2部 特別講演

座長；井上 俊洋 先生（熊本大学）
鈴木 崇 先生（いしづち眼科/東邦大大森病院）

11:00
～
11:40

『 当院におけるICT活動の実際 』

感染対策のニューノーマルと耐性菌対策の環境清掃と消毒について

平井 潤 先生（日本医科大学千葉北総病院 感染制御部）

共催；眼科ICT研究会 / 千寿製薬株式会社



感染制御システム構築のためのチェックリスト作成と今後の展望

武田太郎（いしづち眼科/愛媛大学眼科）



昨年も述べさせていただきましたが、感染対策にかかわらず仕事内容や業務手順は適宜アップデートが必要です。

しかしながら施設によってはマニュアルの改変が行われていなかったり、病院やクリニックによって感染対策に差があったりするのが現状ではないかと思います。これは普段の眼科業務が多忙であることや、マニュアルをアップデートするきっかけがない、あるいは改変するための情報が不足している等々、皆さん実は悩みを抱えているのではないのでしょうか。

今回は関連学会から出されているガイドライン等をご紹介しますつつ、愛媛大学眼科における感染対策の実際をご紹介します。今回はそれらを踏まえ、皆さんの現場で活用してもらうために将来的に何が必要なのかを考えました。

大学病院などでは感染対策チーム（Infection Control Team：ICT）や医療安全チームが結成されており、定期的に院内ラウンドを実施しています。このラウンドではチェックリストをもとにスタッフへの聞き取りや現場の状況を確認しているのですが、眼科領域においてもこのようなチェックリストの作成と、現場ラウンドやコンサルテーションを継続的に行うことが必要なのではないかという考えに至りました。

まだ完全版ではありませんが、このチェックリストを皆さんと共有し、今後は更に改良したものを新たなビジネスとして展開していけたらと考えています。

- 1993年 天理看護学院第一看護学科（現 天理大学医療学部）卒業
- 1993年 天理よろづ相談所病院手術部
- 1999年 日本看護協会「感染管理看護」受講（神戸研修センター）
- 2002年 APIC：Association for Professionals in Infection Control and Epidemiology
感染管理ベーシックコース受講（ロサンゼルス）
- 2004年 松山看護専門学校・手術看護非常勤講師
- 2004年 愛媛大学医学部附属病院手術部
- 2010年 眼科・屈折矯正センター兼任
- 2019年 組織移植認定コーディネーター資格取得
愛媛大学羊膜バンク兼任
- 2024年 いしづち眼科
愛媛大学眼科非常勤





感染管理について手術室看護師としてできること
～術前洗眼と術後眼内炎を中心に～

河部 至貴（木村眼科内科病院 看護師）



手術室は高度な清潔環境を維持する必要があり、感染予防対策が極めて重要です。手術室看護師は日常の環境整備や、手術準備、器具の滅菌管理など、手術環境の維持に欠かせない役割を担っています。

特に眼科手術では、微生物が眼内に侵入することで発症する術後眼内炎を防ぐため、術前洗眼消毒を行います。現在広く行われている方法はヨード製剤を用いた術前洗眼消毒です。ほかにも眼に使用可能な薬剤はありますが、ヨード製剤を使用した処置はエビデンスで高い評価を受けており、眼の表面や微生物の温床となっている結膜嚢内を効果的に消毒することができます。当院では、アレルギーなどない限りPA・ヨード点眼・洗眼液®を使用し、この術前処置は看護師が担当しています。

また、院内全体で感染対策を共有することが重要です。自施設で実際に起きている状況を把握し、データ集積により可視化し、日常の感染対策を強化していく必要があります。その結果をもとに定期的な見直しを行い、研修、勉強会等を通じて最新情報を共有し、業務に反映させることが大切です。

今後、医療技術の進歩や手術の低侵襲化により、術後眼内炎の発生率は減少することが予想されますが、感染予防対策を定期的に見直し、最新のガイドラインやエビデンスに基づく対策を継続することが不可欠です。

本講演では当院看護師が安全な手術環境を提供する為に、実際に行っている感染管理の取り組みについて、「術前洗眼」と「術後眼内炎」を中心に報告します。

2006年3月 国家公務員共済組合連合会呉共済病院看護専門学校 卒業

2006年4月 国家公務員共済組合連合会呉共済病院 就職

手術室・放射線科外来・整形外科病棟に勤務

2014年7月 医療法人社団ひかり会木村眼科内科病院 就職

手術室に勤務となり現在に至る

<所属学会>

日本視機能看護学会 会員

日本骨粗鬆症学会 会員

<所持資格>

2015年 骨粗鬆症マネージャー

2020年 医療安全管理者養成研修修了





アデノウイルス結膜炎アップデート

川村 朋子 (福岡大学 眼科)



アデノウイルス (AdV) 結膜炎は流行性角結膜炎 (epidemic keratoconjunctivitis : EKC) と咽頭結膜熱 (pharyngoconjunctival fever : PCF) の総称である。EKCとPCFの臨床所見はほぼ類似しており、潜伏期は7～10日である。

AdVは飛沫感染や手指を介する接触感染により流行し、非常に感染力が強い。診療器具、院内施設 (椅子、ドアノブ、手すり等)、診療スタッフの手指にて院内感染をきたすことがあり、その予防は非常に重要である。AdVに限らず普段から手洗いを励行することや手袋を着用することは感染症の標準予防策であり、院内感染防止のための基本である。

また近年AdV結膜炎と関連した泌尿器系の疾患であるAdV尿道炎が報告されるようになり、AdV感染症の性感染症としての側面が知られるようになった。今回はとAdV尿道炎を含めAdV結膜炎をとりまく状況について、最近の知見も含めて解説したい。

2007年3月	宮崎大学医学部医学科卒業
2007年4月	九州大学病院初期研修医
2009年4月	福岡大学医学部眼科学教室入局
2010年4月	佐賀県唐津赤十字病院眼科
2012年4月	福岡大学病院 助手
2016年10月	国立感染症研究所 感染症疫学センター 協力研究員
2020年9月	福岡大学大学院医学研究科病態構造系専攻博士課程修了
2021年4月	福岡大学医学部 助教
2022年10月	福岡大学医学部 講師(眼科学)





当院におけるICT活動の実際：

感染対策のニューノーマルと耐性菌対策の環境清掃と消毒について

平井 潤（日本医科大学千葉北総病院 感染制御部）



2019年12月に中国で発生し瞬く間に世界中に広がった新型コロナウイルス（SARSA-CoV-2）による新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、感染対策分野においてもニューノーマル（これまでの考え方や行動や常識とは異なった変化）をもたらした。ニューノーマルの代表的な例として定着したのは無症状の感染者の存在を考慮したユニバーサルマスキングやフィジカル・ディスタンシングや、三密（密接、密集、密閉）の回避、エアロゾル感染対策（飛沫感染のみでなく空気感染も起こる）、空調換気（換気不良な環境下では咳嗽などの症状がなくとも感染が成立するため）などが挙げられる。また、眼粘膜からの感染や鼻涙管を通して咽頭への感染が起ること、涙液からもSARS-CoV-2が検出されたため、感染源として眼や涙は感染対策上考慮すべきとして眼部保護も行われるようになった。个人防护具（PPE）の選択や“No touch” disinfection systemの1つである紫外線照射などの環境消毒も積極的に導入されている。

そしてポストコロナ時代は世界的にも耐性菌の制圧が目標に掲げられ、本邦においても薬剤耐性（AMR）アクションプラン2023-2027が提示された。当院では特に水回りから検出されるカルバペネム耐性腸内細菌目細菌が多く検出されているため、眼科外来を含むシンクの清掃方法の変更やシンク周囲には物品を置かないことを徹底し、汚物室の使用法の見直しなどを含め感染対策を強化している。

発表当日はCOVID-19がもたらした感染対策のニューノーマルの確認と、当院におけるICTがどのように耐性菌対策として眼科外来を含む環境消毒や整備を進めているか情報を共有し、ディスカッションできますと幸いです。

2003年4月-2009年3月：長崎大学 医学部 医学科

2009年4月-2011年3月：琉球大学医学部附属病院＋関連病院 研修医

2011年4月-2013年3月：琉球大学医学部附属病院 第一内科 専修医

2013年4月-2015年6月：愛知医科大学病院 感染症科 助教

2015年7月-2021年6月：琉球大学医学部附属病院＋関連病院

2021年7月-2024年3月：愛知医科大学臨床感染症学講座/愛知医科大学病院感染症科 講師

2024年4月-現在：日本医科大学千葉北総病院感染制御部 特任教授



御出席の方法

当日はZOOMによる配信を致します。
Web配信をご視聴頂く為には、事前の登録が必要でございます。
ご自身での登録、事務局での代理登録の2種類を準備させて頂いております。

- ①ご自身で登録される場合
下記URLよりアクセス頂き、ご登録をお願い致します。
※右側の2次元バーコードからのご登録頂けます。



【事前登録URL】

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_6N9AGERBTACFGR2hwIL8lw

※事務局での代理登録

- ②FAXの場合：以下の項目を記載の上、FAX送信ください。
(FAX送信先；092-272-1409)
③メールの場合；以下項目をメールにてお知らせください。
(千寿製薬事務局；s-atsumi@senju.co.jp)

ご施設名；

都道府県名；

ご 芳 名；

参 加 人 数；

メールアドレス；

▼当日ご視聴される人数分のPCもしくはスマホのメールアドレスをお願い致します。
1機器に対し1つの招待メールでございます。招待メールの転送ではご視聴できません。

▼当日は登録完了通知メールの視聴用リンクよりアクセスしてご視聴ください。

▼入力頂きました個人情報は、弊社の個人情報保護方針に基づき適切に管理致します。

集計の都合上、10/2（火）までに返信をお願い致します。

SENJU